

「運営・美化コンクール」 上位CEの取り組み事例の紹介

宮城県

農業倉庫基金

「運営・美化コンクール上位CEの事例紹介」
の8回目の掲載となります。

今回は、令和3年度に宮城県内のコンクールで
最優秀賞を受賞したJA加美よつば・西部CEを
紹介します。

コンクールの概要

JA宮城カントリーエレベーター協議会（以下、協議会）では、消費者の食の安全・安心に対する関心の高まりから環境整備を徹底するため、平成20年度からコンクールを開催しました。平成25年度から令和元年度までは、東日本大震災による施設被害のため一旦中止したものの、今般の衛生管理が問われる環境であることや、各JAが共通した課題（老朽化にともなう修繕・人材育成や技術の継承など）を抱えている状況のなかで、①ほかの施設を審査・評価して自己の施設の改善につなげること②JA間の交流や情報交換のきっかけとなること、などを期待して令和2年度からコンクールを再開しました。

審査は、県内全35CEを3年で一巡するように対象CEを選定しています。審査員は会員7JAから推薦された施設オペレーター9名および協議会事務局が行っています。

審査項目は「運営管理（品質管理・安全対策など218点満点）」と「環境整備152点満点」の合計370点満点で採点します。他県ではありませんが、ユニークな審査項目として①粉殻の保管管理が適正に行われているかを確認すること②施設の上層部までしっかりと清掃が行き届いているかを調査することです。また、事前に審査員が打ち合わせをして審査基準を統一するとともに、審査員の主観的な評価が反映されないよう複数審査員による合議により採点しています。

コンクールを実施したメリットとしては①「各施設の創意工夫が大いに参考になった」という声が聞かれたり②コンクール再開初年度（令和2年度）は施設間の格差が大きかったものの、翌年度は、いずれの施設でも特に清掃面で大きく改善され、県下全体のレベルアップが図られたことなどが挙げられます。

最優秀賞を受賞した JA加美よつば・西部CEの取り組み

<施設概要>

- ・設置年度：平成8年2月
- ・貯蔵能力：3,015t（穀）
- ・主な設備：丸ビン335t×9基

JA加美よつば管内には、①西部CEのほかに②東部CE③南部CE（飼料用米専用）④もち米専用RCの4施設があり、一体となって運営しています。

今回の取材では、令和3年度のコンクールで最優秀賞を受賞した西部CEの佐々木部長と渡邊さんの2名に話を聞きしました。



J A 加美よつば管内の4施設



佐々木部長（右）と渡邊さん（左）

■衛生管理の徹底

●清掃の徹底

掃除は3区分に分けて管理しています。

- ①大掃除：イベント（荷受け・精選・糊摺り）前後の清掃
- ②中掃除：品種切り替え時や雨天時など荷受休止日の清掃
- ③日々の掃除

このなかでも特に③の日々の掃除を意識しています。これをさぼると①大掃除②中掃除が大変になるので、日々の簡単なところからの清掃でクセをつけることが重要です。清掃については、代々先輩がきっちりしていました。きれいな状態を維持することは大変で、1人ではできません。他C



荷受けホッパーに蓋と目貼りをする



操作室内もピカピカ

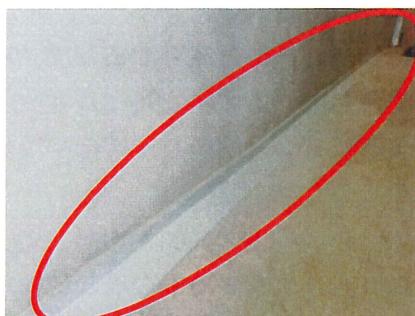
Eにも手伝ってもらい、JA全体で衛生管理の徹底を図っています。1回きれいにすれば気分がよくなり、その状態を維持したくなります。

また、清掃時には機械の状態もよく見るようにして、メンテナンスも並行して行っています。頻繁に部品にグリースを塗るように心がけ、故障ができるだけ少なくするようにしています。最近では、部品を注文してから納品までの期間が長いため、早めの注文を心がけていますが、清掃しているときに機械を見るか見ないかで、大きな差が出てきます。

●ネズミの侵入対策

東日本大震災で建物がズレてしまい、床面と側面との間からネズミが侵入してきます。このため、L字型の鉄板を当ててネズミの侵入を防いでいます。施工は地元の鉄工所に依頼しました。

また、オーバースライダー下部の両端にはどうしても隙間があるため、そこからネズミが侵入してきます。そのため、ダンプレートを切り取って下部両端の隙間を塞ぐことでネズミの侵入を防いでいます。



L字型の鉄板を当ててネズミの侵入を防止



ダンプレートで隙間を塞ぐ

●鳥の侵入対策

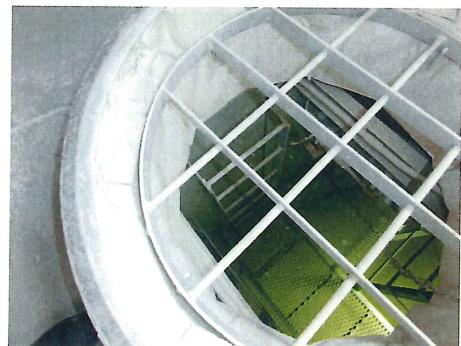
以前は施設内にハトが多く、非常に困っていました。そこで、ハトを見つけたらすぐに追い払うことを繰り返しているうちに、やがて入って来なくなりました。何度も繰り返すうちにハトが恐怖心を抱くようになったようです。

■品質管理

●荷受け時の対応

西部CEと東部CEでそれぞれ受け入れる品種を決めて乾燥・貯蔵を行っていますが、組合員からは、いずれかのCEで取扱わない品種であっても、近い方のCEに搬入してもらっています。JAでトラック（10t×2台）をチャーターして当該品種を扱うCEに移送することにより、組合員の利便性を高めるとともに、稼働率を向上させています。

毎朝水分を確認し、支援システムによる累積張込み量を厳守して乾燥しています。施設内への搬入から4時間以内に乾燥することを遵守しています。



BIN上部から内部を確認

ラインの切り替えを極力減らすことで、乾燥待ちの時間を減らしています。夜勤は基本的には行わず、毎朝1番にBIN上部のハッチを開けて攪拌状況を確認しています。

●コンタミ防止

荷受けは「ホワイトボードを取り付けたボックスコンテナ」および「品種ごとに色分けした伝票」を使用しています。

①受付ではホワイトボードに伝票に記入されている生産者名・品種・乾燥区分・コンテナNoなどを書き写します（荷受け担当者）。書き写すことで、強風により伝票が飛ばされても、荷受け対応が可能となるメリットも生じます。

②ホワイトボードと伝票の記載事項に相違がないことを確認します（荷受け担当者・リフトマン）。

③荷受け担当者がオペレーター（機械操作担当者）に伝票を渡し、丸BIN内へ荷受け順に張り込みます。

④翌日、PCから出力された帳票と伝票に相違がないことを確認します。

こうして何度も間違いがないことを確認してコンタミを防止しています。



ホワイトボードを設置したボックスコンテナ



色分けされた伝票

■安全対策

安全対策にも気を配っています。ヘルメット・安全靴・手袋・きっちりとした服装を厳守して、人身事故がないよう徹底しています。ヘルメットは、フォークリフト運転時にもかぶることを義務づけています。

■人員体制

人員体制については、なかなか人が集まらず苦労しています。JAでは、毎年5日間別の職場を経験する「職場離脱制度」を設けており、この制度を利用して繁忙期の人員不足を補っています。



CE内に入った瞬間に「清掃に相当な労力をかけている」と感じましたが、「すべきことを肅々とやっており、特別なことはしていない」と事も無げに話をされていました。「簡単なところ始めて清掃のクセをつける」ことが、すべての始まりではないかと感じました。ほかの施設でも、ぜひとも参考にしていただきたいと感じた取材でした。

【記：朝侍貴司】